

1. 市民意見等

①公園実態調査

- ・目的：勾当台地区での人の流れの中で3つの広場への出入り利用について定量的に把握すると共に、広場での活動や利用のされ方を把握して、勾当台公園の空間構成、動線計画を検討するうえでの基本資料とする。
- ・調査実施日：2022年10月14日、15日

②意見交換会

- ・目的：勾当台公園基本構想における利活用方法を踏まえ、イベント主催者や観光業界、市民団体(NPO法人)等からの意見を聴取することにより、施設配置などを検討するうえでの基本資料とするため。
- ・意見聴取先と実施日
 イベント主催者(5者) / 2022年7月26日、9月26日、27日 観光業界関係者(4者) / 2022年7月26日、29日
 まちづくり関係者(7者) / 2022年7月26日、9月30日

③イベント時における事業PR

- ・イベント名：道路空間を活用した社会実験
- ・目的：新本庁舎敷地内広場・勾当台公園市民広場などとの一体的利活用の実現に向けた課題検証のため。
- ・意見数：149件 ・実施日：2022年11月3日



イベント時における事業PRの様子

④インターネットアンケート

- ・目的：幅広い世代からの市民から利用状況や要望を把握し、再整備に必要な基礎資料を収集するため。
- ・調査対象：仙台市内在住の満18歳以上の男女、配信者数26,463人
- ・回答者数：500件 ・実施日：2022年11月14日から2022年11月16日まで

⑤市民ワークショップ

- ・イベント名：想像しよう、未来のまち勾当台公園 みんなでワークショップ
- ・目的：公園の散策を通して勾当台公園の魅力や課題について意見交換を行い、今後の勾当台公園の利活用や施設配置、管理運営の計画づくりに生かすもの。
- ・参加者：22名 ・実施日：2022年11月5日

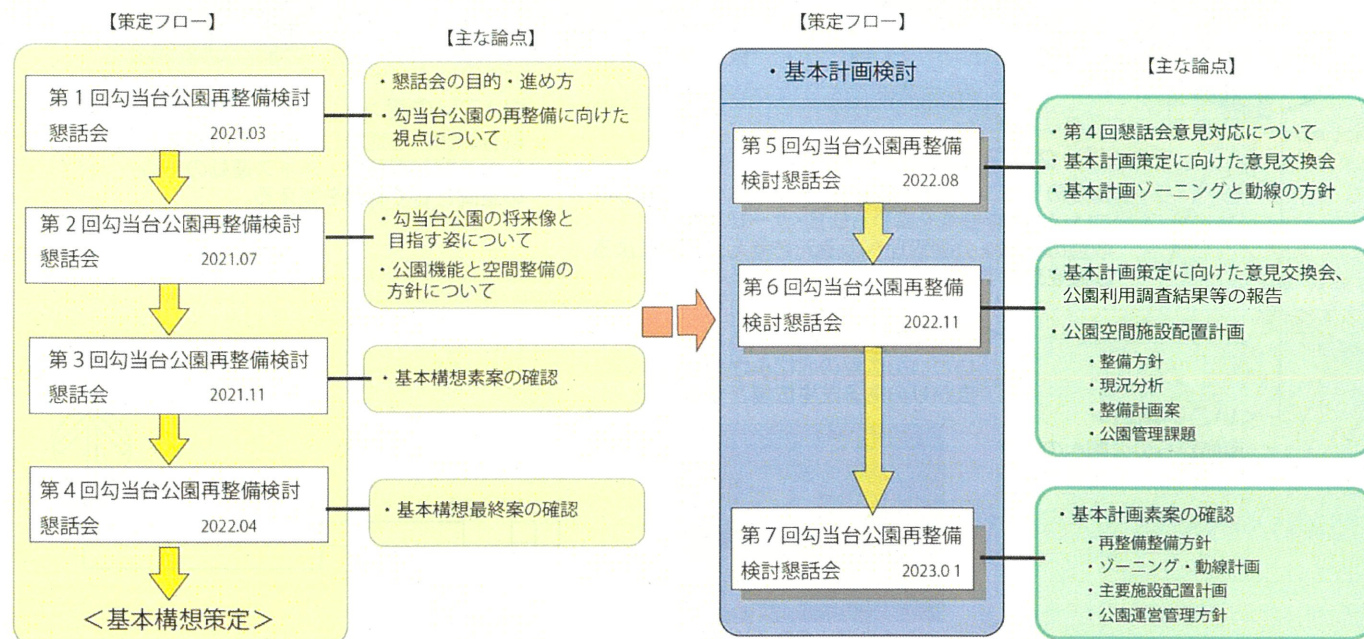


市民ワークショップの様子

2. 計画に向けての流れ

【勾当台公園検討懇話会設置の目的】

仙台市中心部における都市環境の変化や利用用途の拡大により、公園におけるニーズの変化が生じ、公園全体の機能刷新が求められている。今回、市内中心部の更なるにぎわいづくりや公園の価値向上のために、勾当台公園再整備の計画思想、計画の方向性、設計の主題等必要事項の整理・検討を行うことを目的に設置したもの。



1. 計画の背景と目的・基本理念・基本的な方向性

①計画の背景と目的

勾当台公園は、多様なイベントが数多く開催され、年間270日程度も使用されている市民広場、保存樹林であるヒマラヤシーダーに囲まれた勾当台通東側のいこいの広場など、にぎわいやいこいの場として多くの市民に親しまれている。
 本公園の整備後30年以上が経過し、施設に老朽化がみられるほか、市役所本庁舎の建替え事業に伴い、本庁舎低層部・敷地内広場及び勾当台公園市民広場の一体的活用や、本市中心部の更なるにぎわいづくりや公園の価値向上などを目的に令和4年度に再整備基本構想を策定した。
 この基本構想をはじめ、勾当台・定禅寺通エリアで進められている他事業との連携を図りながら、エリアの拠点となり、周辺道路や施設等と一体的な利活用空間を創出する公園とするため、勾当台公園の再整備基本計画を策定するものである。

②基本理念

Common Garden
 ~「ひと」と「まち」をつなぐゆとりとにぎわいの拠点~
 "Common Space" × "Garden"

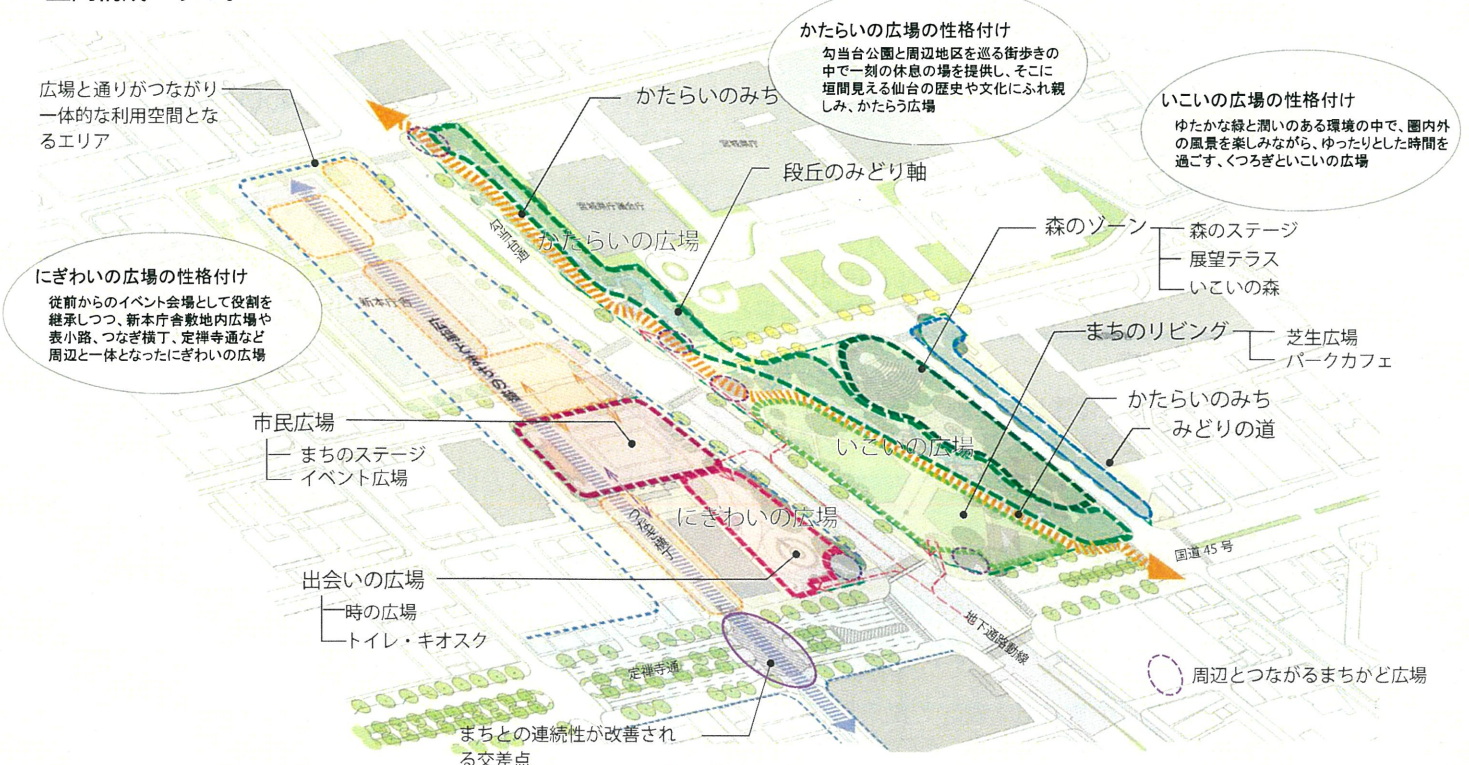
豊かなみどりと人の活動・にぎわいとが調和した「杜の都 仙台」の暮らしの豊かさを実感できる、また新しいこと(市民活動等)へのチャレンジや、思い思いの利用ができる「みんなが使い・育てる私たちが誇りに思う庭」として、仙台のシンボルとなる公園を目指します。

③基本的な方向性

1. 仙台ブランドの発信拠点【世界とつながる】
2. 多彩な市民活動による交流と創造の場【人がつながる】
3. 都心のサードプレイス【心がつながる】
4. みどりの回遊拠点【街がつながる】
5. エリアマネジメントの展開【時がつながる】

2. 空間構成計画

3つの広場の性格付けと整備方針を踏まえて、勾当台地区を貫く二本の南北軸の取り込み、新本庁舎敷地内広場、表小路線やつなぎ横丁、定禅寺通など周辺との一体性を意識して、各空間の性格付けと機能内容を検討し、各広場の空間構成とする。



再整備全体イメージ



かたらいの広場
 歴史を感じさせる石積みや水路を活かした滞留空間や休憩施設などの新たな要素を加え、回遊性と滞留性を合わせ持った広場に再生する。



森のステージ
 大小さまざまな音楽イベントに対応する野外ステージとして、既存の樹木を極力残してリニューアルする。



森のステージのイメージ

展望テラス
 パノラマミックに都心の風景を楽しめるテラス。



いこいの広場
 豊かな森、段丘沿いの水景、街に開かれた開放空間を活かし、多様性に富んだ「いこい」の場として、魅力ある広場に再生する。



いこいの森
 既存の樹木を活かし、野外ヨガやストレッチなど森林ウェルネス運動のための空間として林内を整える。

市民広場
 公園南側の街並み景観形成に配慮した市民広場南側外縁部の設えを検討する。

まちのステージ
 新本庁舎から一番町へと抜ける「広場とまちの軸」を意識しつつ、大規模イベントに対応し得る機能を備えたステージとして改修する。



まちのステージのイメージ

出会いのテラス
 トイレ・カフェ（既存）を撤去し、時の広場を中心に民間ビルとの一体化した出会いと交流の開放的な広場として整備する。

にぎわいの広場
 新本庁舎広場との一体性と広がり、そしてにぎわい性をもった祝祭・交流の広場としての魅力向上を図る。



にぎわい南口
 南側街区、いこいの広場からのアクセスに対し開かれた公園入口の整備を行う。

いこい南口
 南側からの公園へのアクセス口として整備する。

パークカフェ（民間誘導施設）
 まちのリビング（芝生広場）と一体となって公園のいこい・くつろぎ機能を高める飲食・サービス施設。収益の一部を公園管理への還元を考え、民間による設置を想定する。

まちのリビング
 いこいの広場の名にふさわしい広がりのある芝生広場とする。



まちのリビングのイメージ

